

令和3年10月27日

京都大学総長 湊 長博 殿

一般社団法人 日本霊長類学会
副会長 森光 由樹

京都大学霊長類研究所改編についての要望

2021年10月26日に京都大学が発表された「霊長類研究所の改編の方向性」に対して、新体制（案）の再考を要望いたします。現会長が京都大学職員であるため、京都大学と利害関係のない理事を代表し、副会長として要望書を提出いたします。霊長類学は、ヒトを含む300種以上の霊長類を対象とした自然科学であり、進化や生物学的特性を理解するうえで極めて重要な学問です。日本霊長類学会は、人類学、生態学、形態学、心理学、医学、生理学、生化学、実験動物学など分散している各分野の研究を理解し、資料や情報を共有しながら発展してきた学会です。霊長類研究所も同じく、生態学、形態学、系統分類学、心理学、神経生理学、生殖生理学、生化学、集団遺伝学、実験動物学、人類学、動物学、医学、獣医学、薬学など、多様な学問的視点から霊長類を総合的に研究しています。日本国内はもちろん、国際的にも霊長類学を牽引してきました。さらに、霊長類13種約1200個体に対し動物福祉に配慮した飼育を行い、実験動物としての飼育個体、骨格標本や遺伝子試料など、貴重な研究資料を提供することで、研究者ネットワークの国際的・学際的拠点となってきました。特定の研究者による不正経理の問題を受けて貴学が発表された組織改編案は、医学、実験動物学分野は、新たなセンターとして改編され、形態学分野と生態学・行動学分野は、それぞれ別の組織に取り組み、霊長類研究所が最も重要な役割を担ってきた、学際的研究の中核的役割が消失しているように見受けられます。また、残念なことに霊長類学で重要な心理学分野、思考言語、認知学習や細胞生理は組織から除かれる案となっています。貴学がこれまで不断の努力で構築してきた唯一無二の研究が継続できなくなる可能性や、多様な学問分野が交流する学際的研究の中心的役割を継続できなくなる可能性もあり、霊長類学はじめ関係分野における研究水準の低下につながると考えます。また、霊長類研究に関する世界的な研究拠点の消失は、我が国全体の科学研究にとっても取り返しのつかない、多大な損失であると憂慮します。組織改編にあたっては、霊長類学の研究拠点機能が損なわれないよう、そして大学としても長期的に霊長類研究を支援する体制を考えていただきたく、ご対応を是非ともお願いいたします。また、霊長類研究所で飼育されている実験動物に対して、これまで同様に動物福祉に配慮した飼育の継続をお願いいたします。なお、本要望書は決して不正経理の問題を容認するものではないことを申し添えます。

以上

本件の連絡先

一般社団法人 日本霊長類学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-15 6階

(株)クバプロ内 一般社団法人日本霊長類学会

TEL:03-3238-1689

FAX:03-3238-1837

e-mail: psj-secretariat@kuba.jp

附：日本霊長類学会（1985年設立）

<https://primate-society.com/foundation.html>